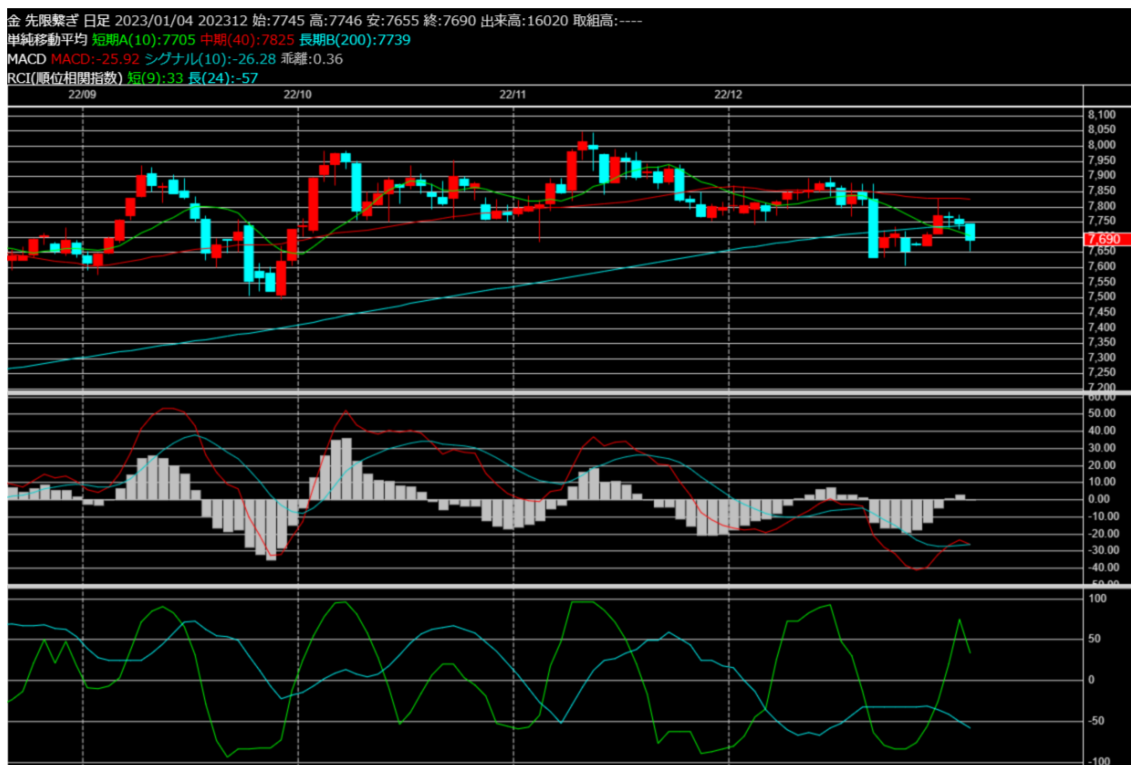


## <金標準先物、円高・ドル安を受けた 7600 円割れに注意・・・>



(出所：オアシス)

2023年1月に入り、最初の取引が開始され為替市場では円相場が7ヶ月ぶりの129円台を付けている。特に黒田日銀総裁の任期が4月8日までであり、その間に日銀金融政策決定会合は1月と3月の2回を残すだけとなるなど、先月12月の会合で金融緩和策の修正を行い長期金利の変動幅の上限を引き上げるなど、退任に向けて今後の修正を強めて来る憶測が流れている。

特に1月18日の次回の会合では、更なる上限幅の引き上げ観測も流れており、120円台の円相場が定着する可能性もあり、円建て金標準先物は目先7600円を試す可能性は高いと思われる。

また今週は、欧州市場の消費者物価指数（CPI）の発表やISM製造業景気指数、FOMC議事録公開、雇用統計と経済指標が発表される事からも、リスク逃避の円買いが強まる可能性が高く、また中国における感染拡大や中国の景気後退観測も控えるなど、投資環境は金標準先物が7800円を伺うより、7600円を試す可能性が強まると恐れられ下値追いに注意した方が良いと思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACD切り下げながら、シグナルは下げ止まるなど、MACDがシグナルを下回る動きを見せ、RCIでも短期が下げながら、長期は切り下げており、オシレーターは弱気を示唆している。特に10日移動平均線が下げながら、日足が下回るなど下値追いの可能性を高めている様に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2023 年 1 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2023 年 1 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>